

スポーツ研究センター専任研究員の活動報告 (2021年度)

広瀬, 健一 / HIROSE, Kenichi

(出版者 / Publisher)

法政大学スポーツ研究センター

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

BULLETIN OF Sports Research Center, HOSEI UNIVERSITY / 法政大学スポーツ研究センター紀要

(巻 / Volume)

40

(開始ページ / Start Page)

83

(終了ページ / End Page)

85

(発行年 / Year)

2022-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00026218>

スポーツ研究センター専任研究員の活動報告 (2021 年度)

Sports Research Center Full-time Researcher Activity Report (2021)

広瀬 健一 (スポーツ研究センター専任研究員)
Kenichi Hirose

要旨

本学の附置研究所であるスポーツ研究センターにおいては、専任研究員が1名在籍している。報告者は専任研究員として2021年4月に着任し、活動を行ってきた。本報告では、今年度に行った活動の概要を報告する。

キーワード：体育会部活動サポート，トレーニング，コーチング
Key words : Support for sports club activities, Training, Coaching

I はじめに

本学の附置研究所であるスポーツ研究センターにおいては、専任研究員が1名在籍している。報告者は、2021年4月にスポーツ研究センター専任研究員に着任した。本報告は、2021年度に実施した業務を報告するものである。

において講習会を実施した。2F 教室2にて、体カトレーニングの基礎知識についての講義、ならびに1F トレーニング室にてウエイトトレーニングのBIG 3 (ベンチプレス・スクワット・デッドリフト) の実践指導を行った。講義スライドの抜粋を図1に示す。

II 活動内容の概要

1. 本学体育会部活動への支援業務

報告者は、本学体育会部活動の支援業務を実施した。業務内容としては以下の通りである。

1.1.2 野球部全体での体力測定の実施

2021年5月中旬から下旬にかけて、野球部に所属する部員全員を対象に以下の測定を実施した。

- ・体組成 (InBody, インボディ・ジャパン社製を使用)
- ・スプリント能力 (10m, 30m, 50m 走)
- ・ジャンプ能力 (スクワットジャンプ, カウンタームーブメントジャンプ, リバウンドジャンプ) (Multi Jump Tester II, DKH 社製を使用)

1.1 野球部

1.1.1 部員へのトレーニング知識の提供

2021年4月6-7日に野球部員を対象に、川崎保健体育棟に

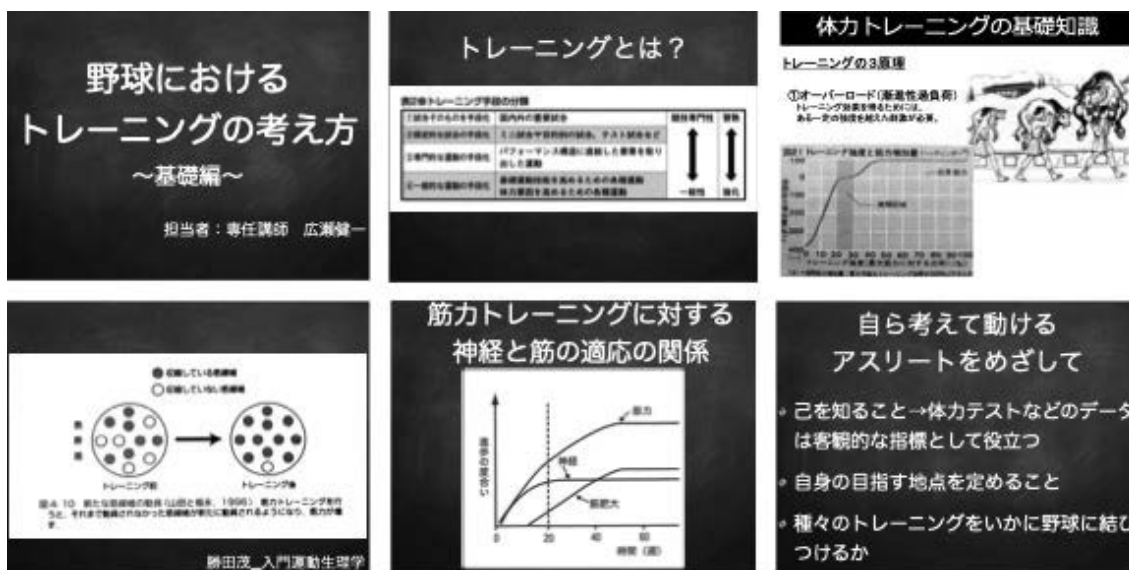


図1 野球部の講習会で使用した講義スライドの抜粋

- ・全身反応時間（リアクションMR、竹井機器工業社製を使用）
- ・脚筋力（T.K.K.5710m、竹井機器工業社製を使用）
- ・メディシンボール投げ（1, 3, 5kgのボールを使用）

2021年12月中旬から下旬にかけて、野球部に所属する部員全員を対象に以下の測定を実施した。

- ・体組成（InBody、インボディ・ジャパン社製を使用）
- ・スプリント能力（10m, 30m, 50m走）
- ・ジャンプ能力（カウンタームーブメントジャンプ、リバウンドジャンプ）（Multi Jump Tester II, DKH社製を使用）
- ・脚筋力（T.K.K.5710m、竹井機器工業社製を使用）
- ・メディシンボール投げ（3kgのボールを使用）

1.1.3 競技力向上に向けた個別トレーニング指導

- ・指導を希望する学生に対して、個別に体力トレーニングの知識の提供、体力トレーニングの実践指導を行った。
- ・怪我からの回復期の状態にある部員に対して筋力トレーニング指導を実施した。
- ・InBodyを使用し、体組成の計測した後に結果をフィードバックした。加えてフィードバックしたデータをもとに、トレーニングの指導ならびに食事管理の知識提供を行った。
- ・部員のトレーニングを担当しているトレーナー部員に対して、トレーニングのアドバイスや知識の提供を行った。
- ・雨天時には、川崎保健体育棟2Fスポーツパフォーマンス測定・評価・実験室にて投手陣を対象にパワーマックス（自転車トレーニング器具）によるトレーニングを実施した。

1.2 アメリカンフットボール部

アメリカンフットボール部のストレングスコーチを介して、

パワーマックス（自転車トレーニング器具）を使用したトレーニングの実施を希望する学生に対し、トレーニングを実施した。

1.3 剣道部

2021年11月15日に市ヶ谷キャンパスの剣道場にて支援業務の説明をするとともに、部員から競技力向上に関する聞き取り調査を実施した。部員からの質問に対しては、フィードバック資料を作成し、部員に提供した。フィードバック資料の抜粋を図2に示す。また、部員にスポットコーチとしてトレーニング指導などの支援が可能である旨を伝えている。

2. 研究活動

今年度の研究業績一覧を以下に示す。

<論文>

- ・広瀬健一・川上若奈（2021）小学校道徳科におけるオリンピック・パラリンピック教育の特質—道徳科教科書の分析を通して—、オリンピックスポーツ文化研究, 6: 73-86.
- ・広瀬健一（2022）運動技術の指導における理想言語としての<指導言語>の措定に向けた試論、体育・スポーツ哲学研究, (印刷中).
- ・広瀬健一（2022）フランソワ・ラブレの身体観とその教育性：彼の身体形成へのまなざしの変化に着目して、体育学研究, (早期公開中).

<学会発表>

- ・広瀬健一（2021）コーチの理想言語としての<指導言語>の措定に向けた試論：コーチング場面の事例をもとにして、2021年度日本体育・スポーツ・健康学会体育哲学専門領域

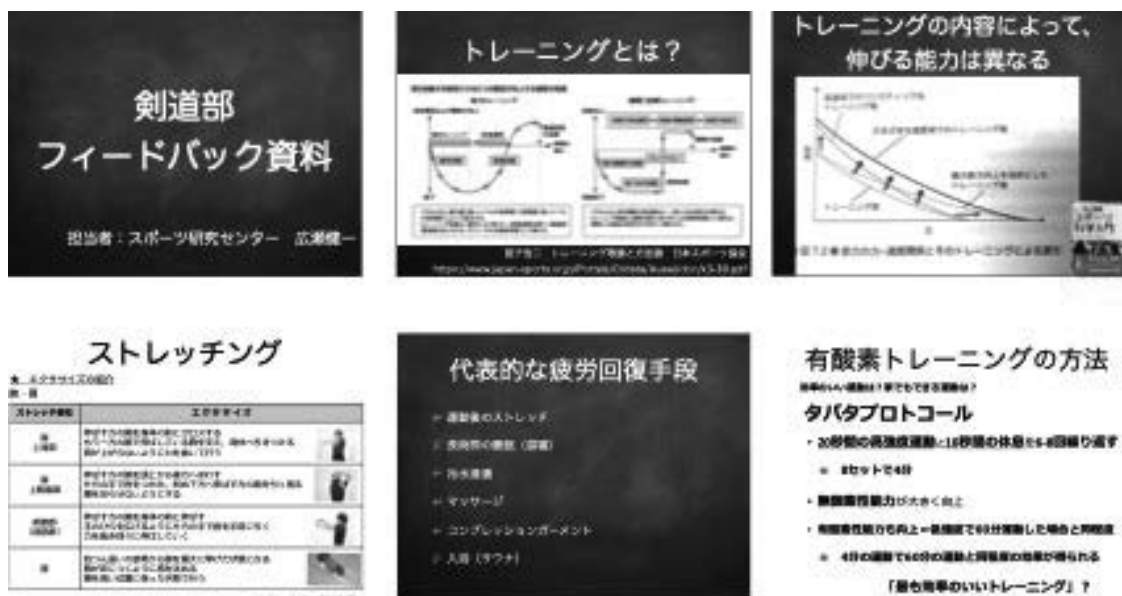


図2 剣道部へのフィードバック資料の抜粋

第 1 回定例研究会（2021 年 6 月 5 日）、オンライン開催。

・広瀬健一（2021）指導言語が通じる現象に対する原理論的検討—〈他者〉性に着目して—、日本体育・スポーツ哲学学会第 43 回大会（2021 年 8 月 29 日）、オンライン開催（主管校：明治大学）。

・Wakana Kawakami and Kenichi Hirose（2021）Moral Education in Physical Education in Japan and France: Focusing on the Three Values of Olympism. 47th Annual Conference of the Association for Moral Education（2021 年 11 月 6 日）、オンライン開催。

<報告>

・広瀬健一（2022）進行中の研究紹介：「コーチング活動における言葉の暴力の解明に向けた研究：指導者と選手の相互関係に着目して」、日本コーチング学会第 33 回大会（2022 年 3 月 2 日）、オンライン開催（主管校：鹿屋体育大学）。

<寄稿>

広瀬健一（2021）あなたの専門は？日本体育・スポーツ・健康学会体育哲学専門領域会報, 25（3）:4-5.

<助成金>

広瀬健一（2021）日本コーチング学会助成金「研究助成：不適切なスポーツ指導をなくすためのエビデンスのさらなる蓄積と提示」（研究テーマ「コーチング活動における言葉の暴力の解明に向けた研究：指導者と選手の相互関係に着目して」）

Ⅲ おわりに

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、部の活動が制限されることもあった。感染対策と、部員に対する対面での指導との両立は難しかった。感染拡大対策の具体的な方策について今後充実させる必要性を感じている。今年度は、野球部、アメリカンフットボール部、剣道部 3 つの部活動への支援業務を実施することができた。今後は更に支援対象となる体育会部活動を拡大できるよう努めたい。